

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627		
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果市町村受理日	平成29年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172200210-00&PrfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人ひとりが、その方らしく暮らしていけるよう環境づくりに配慮し、人として尊厳を遵守するケアを念頭に支援させていただいています。利用者様の素敵な笑顔が自然とあふれるような環境づくり心が通ったケアにつとめていきたい。ご本人だけでなくご家族様にもご満足いただける「ここに入所させてもらって 本当に良かった」の言葉がきかれるように努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が「してもらっている」と思うケアをし、「いやだ」と思うケアはしない様に心がけ笑顔第一をもって介護に取り組んでいる。小学校と保育園の運動会に参加したり、地域の夏祭りに出向いたりしている。保育園児が事業所を訪問してくれたり、事業所の食事に地域の方々に参加してもらったりもしている。終末期については入居時に利用者と家族に事業所の方針を説明している。重度化した時は他の医療機関に入院するか、事業所での看取りとするか、を家族、主治医とよく話し合って意向に沿うように決めている。事業所は低地にあり、毎年行なう防災避難訓練は火災と水害の両面から実施している。散歩や喫茶店には日常的に出かけ、遠方への外出や外食は計画を立てて実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1度の職員会議では、運営理念・職員の心得を唱和し、全職員で理念を共有し、日々実践出来るよう意識の向上に努めている。	できることはやってもらい、できないところを介助して、理念にそったその人らしく生き抜くための支援をしている。全体会議で理念について、話し合い職員で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩は、お天気の良い日には近所の喫茶店・公園に時々出かける。地元の小学校の運動会、二つの保育園にはクリスマス会・七夕会等も交流している。	自治会、小学校、保育園の行事には利用者と一緒に参加をするようにしている。事業所の行事には地域の人々にも参加してもらっている。日頃の付き合いより、近隣の方から野菜をいただく事がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に民生委員の方々を通じ、認定調査・認知症そのものについてのお話をする事がある。退所後のアドバイスやサービスの利用について情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4施設合同の運営推進会議において、活動状況や取り組みを報告することにより、お互いを高められるよう努力している。ご家族や地域の方々の意見を伺い、サービス向上に生かせるよう努めている。議事録は家族に発送している。	事業所合同で開催し、その会議後に事業所ごとに分かれて意見を交換している。前回は防災訓練、水難訓練に関しての議論をした。また、家族会を新設する提案がなされて、その発足の準備をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと、活動状況を把握していた。困難事例等の相談や情報提供を行い連携を深めている。	事業所から市役所に出向き、担当者に事業所に関する情報の提供を行なっている。また困難事例があれば相談をするとともに、転倒、骨折などの事故があったときには、事故報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同身体拘束に対しては理解している。職員会議にて理解徹底に努めている。ご利用者様には拘束しない対応を心がけている。	身体拘束がどのようなものか言葉によるものを含めて職員は理解をしている。外部研修に参加し事業所内においても全体会議の中で勉強会を行なっている。新入職員には入社時に十分に説明できるように教育マニュアルを備えて教育をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んだ内容を参考に、職員会議で勉強会を実施し、正しい知識を理解するように管理体制・職場風土の構築に取り組んでいる。虐待が見過ごされることがないように話し合いをしている。		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会のテーマの1つとなっている。必要が生じた場合は日常生活支援事業や成年後見制度が活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、事前に御家族に十分な説明をおこなっている。疑問点の確認も行いご納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族様には話しやすい雰囲気作りに努めている。ご意見をいただいた時は、職員間で共有し運営の向上に取り組んでいる。ご利用者家族様アンケートも実施している。	利用者からは入浴、食事、散歩、喫茶などの日常の介護の中で、家族からは面会時や介護計画への署名時に意見を聞いている。全体会議で職員が話し合っ、運営に反映させている。外出の要望があり改善がされた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見がトップに反映するよう意見の出しやすい職場作り心掛けている。毎月トップマネジメント会議が開かれている。管理者による個人面談を実施している。	管理者は年2回の職員面談を行ない、各人から意見を聞いている。日常の意見を含めて検討できることは、すぐに取り組んでいる。重要事項はトップマネジメント会議に掛け結果を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や職員がやりがいを持って働ける職場を目指し、一人ひとりの生活環境を理解し勤務体制を整え、キャリアアップが出来るよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やキャリアに応じて研修の参加を促し、心のトレーニングをするよう努め、全職員がスキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議での毎月の会議や勉強会を実施することで、情報交換できる場がある。2ヶ月に1度の行政によるケアマネ会議の参加により同業者との交流もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接・ご家族の入所申し込み時、生活状況・家族状況を把握するよう努めている。ご本人の気持ちを受けとめ、寄り添いながら入所生活に生かせる信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の苦労や今までのサービスの利用状況や経緯について話を伺いながら、早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事やご本人や家族の思い状況等、確認した上で可能な限り柔軟な対応を行い、必要としている支援に添えるよう相談を繰り返すことに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思い・苦しみ・不安・喜びなど傾聴・共感し、ともに支え合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努め、ご本人を支えていくための協力関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族となじみの理容院や医院に出かけられている。人とのつながりが継続できるよう支援させていただいている。どなたでもご自由にご利用様のお知り合いが面会できるようにしている。	美容院、理容院、歯科医院などの馴染みのある所を継続して利用している。入居時に「ご本人らしく暮らしていただくための情報シート」に記入をしているが、馴染みの人や場の情報については記述が少ない。	職員が見てそれを共有することのできるような、馴染みの人や場について記載をする専用のアセスメント表が整備されることを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しくお食事したり、体操・散歩等を利用し関係が円滑になるよう働きかけている。職員は状況により声掛けや情報提供できるよう心がけている。		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた場合でも、相談に乗ったり状況把握に努めている。医療機関に入院された利用者様には、病院に伺い様子の確認をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより性格や生活を御家族におたずねする。日々のかかわりの中で雰囲気やしぐさ・言動などから思いや意向の把握が出来るよう信頼関係の把握に努めている。	何をしたい、何を食べたい、どこに行きたい、などの日常会話やその人の態度より利用者それぞれの思いや意向を把握している。それを申し送りノート、業務日誌、介護記録に記載し職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るよう努めている。プライバシーに配慮しつつご本人やご家族等のかかわりの中で、生活歴や馴染みの暮らし方等取り入れていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活のかかわりの中で利用者一人一人の生活のリズム・心身状況を記録し、職員が情報を共有し、申し送りなどを取り入れ現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に日々の生活の中での思いや意見をもとに介護計画を作成するよう努めている。現状を常に共有して意見、要望の把握に努めている。	本人と家族の要望を取り入れ、主治医の意見を聞き、カンファレンスで職員が話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは毎月行なっている。介護計画は家族に報告書と手紙を添えて渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事量・水分量・排泄状況等身体的状況・日々の暮らしの様子を記録、申し送りし、職員間で状況を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院や送迎やご家族の方への夕食を提供をする等満足していただけるような支援ができるよう努力している。		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政・消防署・民生委員・駐在所・自治会長等の参加を呼びかけ、周辺状況や支援に関する情報の交換協力関係を築けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や入所後もご本人ご家族の希望を確認しながら、協力医療機関がかかりつけ医での継続的な医療が受けられるよう支援している。状況に応じて家族に代わり受診の付き添いも行っている。	かかりつけ医を従来そのままとするか、協力医に変更するかは自由であるが協力医とする利用者が多い。受診は家族か看護師のいずれかが付き添い、互いに連絡を取りながら連携をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調変化や健康管理に注意を払い、早期の段階でご家族に報告し協力医療機関に受診できるよう心掛けている。看護職員不在時による併設看護職員との連携をはかり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携をはかり、情報提供できるよう心掛けている。入院時にも出来るだけ見舞い、早期に退院支援に結び付けられるよう情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について状況が変化した時など、家族と話し合いを重ね確認し合い、協力医・協力病院と連携をとりながら対応している。他施設との協力体制を整えている。	家族と本人に、終末期における看取の方針を説明している。事業所での看取りの事例はこれまで多くあった。話し合いにより医療機関に入院する利用者もある。職員の心の負担を考えて看護師による勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようマニュアルや連携網を作成し設置している。救命訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用し、周辺の福祉施設・市町村・警察署との協力体制と、地域住民の方の災害対策や体制について協力体制の構築に結び付けられるよう努めている。	年2回の火災と年1回の水害に対する避難訓練を、夜間想定を含めて実施している。地域からは自治会長など運営推進会議のメンバーの参加がある。非常用として食料、水、おむつを3日分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りや人格を尊重して言葉かけ等については会議で話し合い、ご本人の気持ちを大切にさりげないケアに心掛けている。他の利用者様にも理解がえられるように努めている。	おむつの交換時には必ずドアを閉め、入浴は1対1で行なうなど、さりげない態度で気を配るようにしている。言葉掛けは敬語と親しみのある言語を人にあわせて使い分けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方に合わせ声かけし、日常の中で表情や反応を注意深くキャッチしながら、ご本人の思いや希望を伝えやすい場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。その日のコンディション・様子を見ながら希望を尋ねたり相談しながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本にご本人の意向で決めているが、ご自分で決められない方は職員が行っている。希望により美容院や訪問理容が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望のメニューを工夫したり、季節の行事の料理を取り入れたり、昔ながらの料理などを楽しみながら食べていただけるよう工夫している。野菜の下ごしらえなど出来ることは一緒にしている。	利用者の好みやその日の希望に配慮して、献立は当日に決めている。利用者と職員はいっしょに会話を交わしながら食事をとっている。天気の良い日にはエントランスで弁当や喫茶を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調と一日の摂取量を毎日把握している。食事量・水分量も個別に確認するようにしている。トロミ使用の方、水分量の少ない方も支援方法を考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状況に添った個別支援にて口腔ケアを行っている。職員が一人ひとりその方の支援方法にそってケアしている。		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の力や排泄のパターン習慣を把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援、トイレに誘導し座ることでの排泄習慣を大切にしている。	1人ひとりが持つ力を配慮して自立に向けた支援をしている。必要な人には職員から声掛けをしてトイレに誘導している。夜間は状態に合わせて、おむつやポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、朝食前に牛乳やジュース等をお出しし、十分な水分摂取の提供に取り組んでいる。体を動かし散歩・体操の声かけしている。野菜の多い献立にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせてタイミングに合わせて入浴していただく、気分を変えリラックスしていただけるよう入浴剤なども入れるよう工夫している。	週に2回から3回の入浴がほとんどであるが毎日でも入浴することができる。職員と1対1で対話をしながら楽しく入浴をしている。入浴剤や浴槽に入っている時間は個々に合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、生活のリズムを整えるよう努める。また体調や体力に合わせて休息していただくよう努めている。就寝時間も決まっていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・効能副作用の説明ファイルを保管し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬後にきちんと服用できたか確認している。異常がある場合は、看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝える。新聞折り・洗濯物たたみ・ゴミ袋折り・お掃除。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気分転換の外気浴・テラスでのティータイム、近くの食堂・喫茶店に出かける。年間計画にて外出支援をしている。	近隣への散歩や喫茶店へは日常的に行っている。図書館や少し遠くのスーパーマーケットに行くこともある。年に数回、木曾三川公園などの遠方へも行っている。気持ちが不安定になった方を散歩に誘い気分転換が図れるようにしている。	

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関する不安や不満が生じないようご家族と話し合い、満足していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様がご家族と連絡を取りたいと申し出があった時はすぐに取りれるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事を行った写真などを活用しながら、暮らしの場を整えている。利用者様が作られた作品をかざって季節感をだしている。	食堂にはソファが置かれ、利用者はそれぞれ自由に使用している。共有スペースの畳の部屋には、炬燵が置かれており、利用者は洗濯物を干したり、たたんだりしている。テラスに出て寛ぐこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時 リビングでの席は、仲の良い方・ご夫妻等くつろげるよう工夫している。椅子や机の配置を工夫してゆったり過ごせる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や馴染みの品・お位牌など思い出のものを置いていただき、意心地よく安心して過ごしていただけるよう工夫している。	ベッドと筆筒が事業所の用意したものであり、備品や小物は利用者が自由に持ち込み、使い勝手の良いように使用している。さっぱりとした居室もあり、使用形態は利用者によりさまざまである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗が生じた時は、その都度 職員で話し合い利用者様の不安を取り除き、自立支援につなげられるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627		
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果市町村受理日	平成29年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=ion_kouhyou_detai_1_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172200210-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人ひとりが、その方らしく暮らしていけるよう環境作りに配慮し、人として尊厳を遵守するケアを念頭に支援させていただいています。利用者様の素敵な笑顔が自然とあふれるような環境作り心が通ったケアに努めていきたい。ご本人だけでなくご家族様にもご満足いただける「ここに入所させてもらって 本当に良かった」の言葉がかけられるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1度の職員会議では、運営理念・職員の心得を唱和し、全職員で理念を共有し、日々実践出来るよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩は、お天気の良い日には近所の喫茶店・公園に時々出かける。地元の小学校の運動会、二つの保育園にはクリスマス会・七夕会等も交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に民生委員の方々を通じ、認定調査・認知症そのものについてのお話をすることがある。退所後のアドバイスやサービスの利用について情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4施設合同の運営推進会議において、活動状況や取り組みを報告することにより、お互いを高められるよう努力している。ご家族や地域の方々の意見を伺い、サービス向上に生かせるよう努めている。議事録は家族に発送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと、活動状況を把握していただいている。困難事例等の相談や情報提供を行い連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同身体拘束に対しては理解している。職員会議にて理解徹底に努めている。ご利用者様には拘束しない対応を心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んだ内容を参考に、職員会議で勉強会を実施し、正しい知識を理解するように話し合いを検討するような管理体制・職場風土の構築に取り組んでいる。虐待が見過ごされることがないように話し合いをしている。		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会のテーマの1つとなっている。必要が生じた場合は日常生活支援事業や成年後見制度が活動できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、事前に御家族に十分な説明をおこなっている。疑問点の確認も行ってご納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族様には話しやすい雰囲気作りに努めている。ご意見をいただいた時は、職員間で共有し運営の向上に取り組んでいる。ご利用者家族様アンケートも実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見がトップに反映するよう意見の出しやすい職場作りに心掛けている。毎月トップマネジメント会議が開かれている。管理者による個人面談も実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や職員がやりがいを持って働ける職場を目指し、一人ひとりの生活環境を理解して勤務体制を整え、キャリアアップが出来るよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やキャリアに応じて研修の参加を促し、心のトレーニングをするよう努め、全職員がスキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議での毎月の会議や勉強会を実施することで、情報交換できる場がある。2ヶ月に1度のケアマネ会議の参加により同業者との交流もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接・ご家族の入所申し込み時、生活状況・家族状況を把握するよう努めている。ご本人の気持ちを受けとめ、寄り添いながら入所生活に生かせる信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の苦労や今までのサービスの利用状況や経緯について話を伺いながら、早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事やご本人や家族の思い状況等、確認した上で可能な限り柔軟な対応を行い、必要としている支援に添えるよう相談を繰り返すことに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思い・苦しみ・不安・喜びなど傾聴・共感し、ともに支え合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努め、ご本人を支えていくための協力関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族となじみの理容院や医院に出かけられている。人とのつながりが継続できるよう支援させていただいている。どなたでもご自由にご利用様のお知り合いが面会できるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しくお食事したり、体操・散歩等を利用し関係が円滑になるよう働きかけている。職員は状況により声掛けや情報提供できるようにしている。		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた場合でも、相談に乗ったり状況把握に努めている。医療機関に入院された利用者様には、病院に伺い様子の確認、病院との連携をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより性格や生活をご家族におたずねする。日々のかかわりの中で雰囲気やしぐさ・言動などから思いや意向の把握が出来るよう信頼関係に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るよう努めている。プライバシーに配慮しつつご本人やご家族様等のかかわりの中で、生活歴や馴染みの暮らし方等取り入れていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活のかかわりの中で利用者一人一人の生活のリズム・心身状況を記録し、職員が情報を共有し、申し送りなどを取り入れ現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族に日々の生活の中で思いや意見をもとに介護計画を作成するよう努めている。現状を常に共有して意見、要望の把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事量・水分量・排泄状況等身体的状況・日々の暮らしの様子を記録し申し送りし、職員間で状況を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院や送迎や家族の方への夕食を提供をする等満足していただけるような支援が出来るよう努力している。		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政・消防署・民生委員・駐在所・自治会長等の参加を呼びかけ、周辺状況や支援に関する情報の交換協力関係を築けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や入所後もご本人ご家族の希望を確認しながら、協力医療機関やかかりつけ医での継続的な医療が受けられるよう支援している。状況に応じて家族に代わり受診の付き添いも行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調変化や健康管理に注意を払い、早期の段階で家族に報告し協力医療機関に受診できるよう心掛けている。看護職員不在時による併設看護職員との連携をはかり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携をはかり、情報提供するよう心掛けている。入院時も出来るだけ見舞い、早期に退院支援に結び付けられるよう情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について状況が変化した時など、家族と話し合いを重ね確認し合い、協力医・協力病院と連携をとりながら対応している。他施設との協力体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようマニュアルや連携網を作成し設置している。救命訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用し、周辺の福祉施設・市町村・警察署との協力体制と、地域住民の方の災害対策や体制について協力体制の構築に結び付けられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である方々に尊厳の気持ちを持って接し一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに常時対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が話される少しい言葉や表情から真意を汲み取りご本人に対するケアの情報共有に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の一日の過ごし方を把握した上で、体調や天候などを考慮し過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えはご本人に選択していただいたり、整髪支援はご本人やご家族の意向に応じて支援している。衣類の購入も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好物を把握して季節の物を嚙下状態に応じて個別の食事形態にて提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量は、介護記録に記入し、一人ひとりの体調等も一目でわかるようにしている。状態に合わせて食事形態、食事ペースにあわせて提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯の手入れが出来る方は、御自分で行っていただきその方の状態にあった支援にて口腔ケアをおこなっている。		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握しご本人の表情やサインを見逃さず迅速に対応できるようにし昼間は、トイレでの排泄支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の排便状況を把握し水分を多めに摂取していただき体操や散歩の声掛けをして腹部のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭用のサイズの個浴にご自分のペースでゆっくり入浴できるよう工夫している。入浴剤や冬至にはゆず湯等季節感も味わっていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調や体力を把握し適度に昼寝を行うなどして休まれている。就寝時間も自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、利用者様の薬の把握に努めている。利用者の状態に応じて確実に服薬できるよう飲みやすさ飲むタイミングの工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日のかかわりの中で出来ることを見つけ出し楽しみにつながるように支援し気分転換を兼ねて掃除等のお手伝いも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や天候に応じて行っている。近所の喫茶店、公園、テラスでのティータイム等行っている。		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じないように御家族と話し合い満足していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話しやすいよう声掛けし直接お話できるように支援している。申し出があった時はすぐに対応できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にイベントの飾り付けをして季節感を取り入れ生活感が伝わる空間作りを工夫し心安らげるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファーや食卓の席には仲の良いかたが、近くで過ごせる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた品使い慣れたものを居室においていただき精神的負担がかからないよう工夫している。居心地良く安心して過ごしていただけるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や車椅子での動線確保に気を配りご本人の不安を取り除き安全な環境での自立支援につなげられるよう工夫している。		